

夕刊

室蘭民報

MUROMIN

5月28日 土曜日

2016年(平成28年)

被災者救う「傾聴」

釜石派遣・海星学院の6人

室蘭西中で体験談



室蘭西中学校で東北ボランティアの体験談を伝えた海星学院高の生徒たち

東日本大震災被災地の岩手県釜石市で傾聴ボランティアをした室蘭・海星学院高校(堺俊光校長、237人)の6人が27日、室蘭西中学校(高見恭介校長、290人)を訪れ、被災地の現状や仮設住民との交流エピソード、「率先者たれ」「傾聴こそ分かち合い」などのメッセージを伝えた。

昨年7月に派遣された大谷優生さん(3年)や下田蒼さん(2年)らが体験談を発表した。大谷さんは滞在中に見舞われた激しい揺れの恐怖や「津波が来たらまず逃げる。それが他の避難に繋がる」との心得を伝えた。下田さんは

「傾聴に必要なのは受け止める心。分かち合えば喜びは倍に、悲しみは半分になる。身近な人の話に耳を傾けてみてください」と呼び掛けた。

室蘭西中の佐藤陽太さん(3年)は「一年が近い高校生のリアルな体験を聞き、被災地を身近に感じた。話を聞くことが力になると知り、ボランティアに関心を持った」と感想を述べていた。高見校長は「ボランティアや社会参画の意識を高め、防災教育の観点からも自助・共助の意識を深めてほしい」と話していた。

(成田真梨子)